

武田の軍道 棒道を歩く



この地には武田氏が甲斐の国を統一する前に逸見氏などの大きな勢力がいた。ここは信濃へと向かう重要なルートで、武田信玄が軍用道路として整備したといわれ、棒道として伝わっている。

スタート 甲斐小泉駅 1.1km 15分

① 六所神社
逸見光長の長男の基義が式典を行ったことからこの神社が建てられたとされる。

② 法性寺
武田信玄が開基と伝えられる寺。川中島の戦いの戦勝祈願のために建立したという伝承がある。

このルート上にはいくつもの観音菩薩像が置かれており、旅人の無事を願ったとされています。

江戸時代には湧水を三方へ分けた三分一湧水。その方法は武田信玄が考案したという言い伝えがあります。

ゴール 長坂駅 1.6km 25分

③ 清光寺
逸見清光が開いたとされる寺院で、墓地に清光の墓がある。甲斐源氏ゆかりの寺院として大事にされ、北杜市指定文化財である武田勝頼の禁制禁止事項を書いたものも所蔵している。

④ 谷戸氏館跡
安楽寺の南側で、近世の豪族谷戸八右衛門の建物跡が見つかった。また、中世の堀状遺構も見つかつており、これに土塁が付属していたと考えられることから、館跡の存在も推測されている。

⑤ 深草館跡
館の主は逸見清光の子の光長とも、逸見氏家臣の堀内氏ともされる館跡。堀と川に囲まれて、川に沿って土塁が高く築かれているため、中に侵入することは困難である。内部は土塁により大きく三つの曲輪に分けられている。県指定史跡。

⑥ 逸見神社
元々は源義光が谷戸城の南に建て、逸見清光が現在の地に移したとされる。以後、逸見氏が代々崇拝した。

⑦ 谷戸氏館跡
安楽寺の南側で、近世の豪族谷戸八右衛門の建物跡が見つかった。また、中世の堀状遺構も見つかつており、これに土塁が付属していたと考えられることから、館跡の存在も推測されている。

⑧ 谷戸城跡
逸見清光の城と伝えられる。一から三の郭は高い土塁や深い堀に囲まれて、防衛が厚くなっている。発掘調査では主郭から14世紀後半から15世紀前半の遺物が出土した。この時代は逸見氏が武田氏に抵抗していた時代である。城の上からは韭崎まで一望でき、この地を押さえるのに最適な場所である。国史跡。

⑨ 金生遺跡
縄文時代後期から晩期の集落が現地に復元されているが、縄文時代の遺跡の他に中世の掘立柱建物跡などが確認されている。これらは深草館の外郭と考えられている。国史跡。

⑩ 小和田館跡
発掘調査によって見つかった館跡で、大きな堀に囲まれた中に、掘立柱建物跡や井戸跡などが発見され、茶碗や硯、水差しなどの遺物が出土した。また、館跡の東に位置する調査区からは竪穴状遺構など約6000枚もの銭貨が出土した。出土遺物から館跡は15世紀末から16世紀まで使われていたと見られるが、寺院跡の可能性も考えられている。

⑪ 金生遺跡出土の兔形水滴
(北杜市教育委員会提供)

⑫ 小和田館跡出土の銭貨
(北杜市教育委員会提供)